

【目次】

- 問題行動等調査結果の分析を生かしましょう
- 安全・安心ほっと情報（スクールロイヤー（SL）の助言より）
- 小中学校にも防災教育コーディネーターが導入されます

- 
- 問題行動等調査結果の分析を生かしましょう
- 

●あなたの教室は「不機嫌」？「ご機嫌」？

児童・生徒のストレス感が強い「不機嫌な教室」では、いじめや不登校が多く発生する傾向があるそうです。「同調圧力が強い」「教師の指導が管理的・抑圧的である」「自由度が高くてもルールや規範が共有されていない」などのストレス要因は「不機嫌な教室」を生み出します。（参考『いじめを生む教室』荻上チキ著・PHP新書）

教室（学級や授業）においてルールや規範は必要です。そのルールが、児童・生徒にとって、「納得性のあるものか」「自分や仲間たちの成長を実感させるものか」などを振り返り、ストレスのない「ご機嫌な教室」づくりを進めましょう。

●いじめ「教職員による発見」がゼロではありませんか

平成29年度の「いじめ認知ゼロ」の学校数は大きく減少しました。些細なトラブルも見逃さない取組が進んでいます。しかし、調査項目「いじめ発見のきっかけ」のデータでは、「認知」はされていても「教職員による発見がゼロ」の学校が全小中学校の約23%存在しています。このようにいじめは大人の目の届かないところで、まだまだ起きています。相談の窓口や機会を増やす、答えやすいアンケートの作成など、様々な工夫をしながら「見逃しゼロ」を目指しましょう。

- 
- 安全・安心ほっと情報（スクールロイヤー（SL）の助言より）
- 

●いじめ事案の初期対応

複雑化、長期化したいじめ事案では、相談された担任や部活顧問が、自分で解決可能と考え、一人で抱え込んでしまったことに起因するケースが多い。いじめ防止対策推進法の「いじめの定義」「組織的な対応」などについて正しい理解が必要だ。組織としての初動のあり方は、少し大げさだと思うくらいが適切な対応となり、問題の早期解決につながる。

- 
- 小中学校にも防災教育コーディネーターが導入されます
- 

●防災教育コーディネーターについて

国が策定した「第2次学校安全の推進に関する計画」を踏まえ、来年度から全市町村において防災教育コーディネーターを導入することとしています。今年度から佐伯市・豊後大野市などの小中学校が防災教育コーディネーターを導入しており、このコーディネーターを中心に防災教育の年間指導計画を策定し、教科学習や学校行事において組織的・系統的に防災教育を取り入れたり、保護者や地域への情報発信を行っています。

●インフルエンザ等の予防対策の徹底

インフルエンザ等の感染症の予防には、①流行前のワクチン接種、②外出後の手洗い、③適度な湿度（50～60%）の保持、④十分な休養とバランスのとれた栄養摂取などの基本的な予防対策を行うことが大切です。学校においても、地域における感染症の流行情報や、「学校等欠席者・感染症情報システム」により児童生徒の欠席状況を適切に把握して、基本的な予防対策を徹底し、校内での感染症の流行を阻止しましょう。

- 
- ◎メルマガに対するご意見や取り上げてほしいテーマは以下から投稿してください。

<https://www.egov-oita.pref.oita.jp/8oNP6Dkf>

- ◎過去のバックナンバーは以下のURLから御覧いただけます。

<http://www.pref.oita.jp/site/gakkokyoiku/mailmaga.html>

---

配信元：大分県教育庁学校安全・安心支援課

URL：<http://www.pref.oita.jp/soshiki/31450/>